

互いのよさを認め合い、協力して学級をよりよくしようとする児童の育成 —「学級パワー」の活用と互いのよさを意識した話合い活動を通して—

特別研修員 特別活動 鹿内美緒（小学校教諭）



【児童の実態】

相手のマイナス面に目が向きがち。
集団意識が低く、自分中心に物事を考える傾向にある。

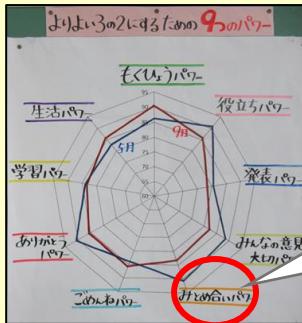
【教師の願い】

互いのよさを認め合い、協力し合って学級をよりよくする意識をもってほしい。

事前

手立て① 「学級パワー」の活用

- ・学級に対する意識調査の実施
- ・結果に基づき、学級をよりよくするために必要な9つの項目（○○パワー）を決定
- ・結果をレーダーチャート図に表し、学級の課題を見える化
- ・本時で高めたいパワーの決定



【議題決定までの児童の思考の流れ】

5月から9月で学級パワーが下がったところがあるね。どのパワーを高めたら、よりよいクラスになるかな。

認め合いパワーを高めたら、他のパワーも高くなる気がするよね！

認め合いパワーを高めるための作戦を決めよう！

議題名『認め合いパワーを高めるための作戦を決めよう』 学級活動（I） 第3学年

手立て② 話合いを活発に行うための環境づくり

- ・話合いの形態（円形・椅子のみ）
- ・トーキングスティックとしてぬいぐるみを使用
- ・コンプリメントの交換（友達にしてもらって嬉しかったことや頑張っていたことの発表）



休み時間に○○さんが遊ぼうと誘ってくれて嬉しかったです。



○○さんの意見に何か付け足しはありますか。



落ち着いて意見を言うことができるな。

友達のよいところを見付けて、紙に書くのはどうですか。

書くだけだと伝わらないから、書いたことを直接相手に言う方がよいのではありませんか。

よいところを見付けて書けばいいと考えていたけど、○○さんの意見を聞いて直接伝えるのもよいと感じたな。

手立て③ 振り返り時の問い合わせ

- ・終末の振り返りにおける児童の発言をつなげるための教師の問い合わせ

司会チームの人たちが、一生懸命に話合いを進めていました。今度自分がやるときも頑張りたいです。



今の発表を聞いて、○○さんはどう感じましたか。

とても嬉しいです。

決まったこと『全員のよいところを共有するノートを作って、書いていく』

【実践した感想】

- ・自分のよいところを見付けてもらうと、自分のよいところを認められるようになった。
- ・一人一人が自信をもてるようになった気がする。
- ・もっともっとよいクラスにしたい。

（児童のワークシートより）

事後

【目指す児童像】

互いのよさを認め合い、協力して学級をよりよくしようとする児童

【成果】

- 環境づくりや教師による問い合わせを行ったことで、相手の思いや考えを大切にしながら話合いを進めることができた。そして、よさを認め合うことの価値を実感することができた。
- 学級パワーについて話し合うことで、学級へ意識が向き、協力して学級をよりよくしていこうとする児童が増えた。

【課題】

- 教師が児童の実践をよく観察し必要なときに声を掛けることで、自分たちで決めた活動を継続して行うことが可能となり、学級をよりよくしようとする力を更に育むことができる